

昭45-16087

⑩実用新案公報

④公告 昭和45年(1970)7月4日

(全4頁)

1

⑤前部に指止めを具えた万年筆

②1実 願 昭40-66907

②2出 願 昭38(1963)12月9日  
(前特許出願日援用)

優先権主張 ②31963年1月12日②3ドイツ  
国②1G36815  
②31963年4月2日②3ドイツ国  
G37418

②7考 案 者 ハインツ・ハルトマン  
ドイツ国ハノーバー、スピノザス  
トラーセ9

②7出 願 人 ケハ・ウエルケ・ゲゼルシャフト  
ミット・ベシユレンクテル・ハフ  
ツング  
ドイツ国ハノーバー・ポドビール  
スキストラーセ321

代 表 者 レオナルド・カムプツイク

代 理 人 弁理士 金丸義男 外2名

図面の簡単な説明

第1図は万年筆前部に取り付けられた回転サツクに指止めを有する万年筆の前部断片の側面図。第2図は第1図に示した万年筆断片の90°回転した側面図。第3図は回転サツクを外した場合の万年筆の前部断片の第2図に相当する側面図。第4図は第3図による万年筆の回転サツクの中央縦断面。第5図は万年筆前部の他の実施例における第3図に相当する側面図。第6図は第5図による万年筆の回転サツクの中央縦断面図を示す。

考案の詳細な説明

万年筆を握み易くし、滑らないようにしつかり持てるようにするために、例えば簡単なペン軸、鉛筆、シャープペンシル、ボールペン及び万年筆のような各種の筆記用具の前部に凹部、勾配、弾性押板等の形の指止めを設けることは知られている。万年筆を握り易くするために役立つこれら周知の筆記具用前部の形態は、万年筆利用者の手と指が形と大きさにおいて千差万別であり、書く時

2

は利用者は一定の位置に指を保つのが普通であることを願慮していない。

他面においては、例えば初心者に万年筆の正しい用法を教えるために、習字教育に指止めのある万年筆を用いることは非常に有益であることが証明されている。指のけいれんを起さないで書くことを習うためには万年筆をいかに握るべきか及び指をいかに支えるべきかを、まだ書き方を知らない初心者に教えることが如何に困難であるかは、どの先生も皆知っていることである。

10 初心者は最初の習字用には大抵、斜めに持つて書くことのできる比較的硬い、先の抜がらないペン先の万年筆を用いる。初心者はペン先から指先までの間を短かくして書かなければならない、即ちペン先から人差指の指先までの間隔が約1.5cmになるようにペン軸を摘まなければならない。筆記用具の正しい使い方の初歩を既に習った子供は多少柔らかいペン先で書き、ペン先を更に傾けた位置に保ち、ペン先から人差指の指先までの間隔が約2.0cmになるように万年筆を摘まなければならない。熟練者は指先からペン先までの間隔を更に長くして書くべきであり、3.0cmまでにすればよい。各習字段階で子供に選ばれるべきペン先から指先までの間隔は先生によつてそれぞれ決められる。

25 本考案の目的は、早く疲れたりけいれんを起したりするのを避けるため、万年筆前部の正しい箇所を摘み、人差指と中指をできるだけ伸ばした状態で異つた手の大きさおよびペン先に合わせて書くことを万年筆使用者に強制したり或は少なくとも勧誘することにある。これは初心者教育の重要な問題であるばかりでなく、既に一定の書き方を身につけた者にとつても万年筆の便利な使用を可能ならしめるために有意義である。

30 本考案によればこの問題は、万年筆前部に万年筆のペン先から各種間隔で指止めを設けることによつて解決された。本考案のこの基本的着想は色々な施工において実現される。例えば付属装置なしに作り得る実施形態では、万年筆前部の外表面

3

周辺に万年筆の軸方向に多数の指止めを分布して設ければ極めて簡単に実現される。

本考案により課題は、軸方向に移動しないようにされ、その時々回転位置に固定できる回転サツクが配置され、この回転サツクの外側端面に指止めが形成されることにより解決される。

実用に特に好適な、より優れた実施形態は、外装周辺に分布され、サツクの中心軸の方向に互に対置された多数の指止めを有する回転サツクを万年筆前部に配置することにある。ペン先は或るものは非常に鋭く、或は細く或は又太く研磨され、真直ぐのもあれば斜めに形成されているものもあり、各場合に指止めに対してペン先の角度を決める場合これを考慮しなければならないが、特にペン先の形を考慮するために、それぞれ用いられた指止めを、ペン軸前部の孔内のインクパイプによつて堅く締めつけられたペンに対し正しい角度に調製し易い可能性を提供するのが回転サツクである。サツクの回転によつて万年筆使用者は、各自の手に適し、最も有利な指の考え方になる指止めの位置を極めて正確に知ることができる。

三個の指止めをそれぞれ $120^\circ$ の角距離で回転サツクの周囲に分布し互にずらして適当に配置すれば人差指はペン先に一番近い指止めAの上に置かれ、中指は次の指止めBに、母指はペン先から最も離れた指止めCに位置する。これは初心者指の位置であり、筆記に参与する三本の指は全部案内される。

サツク $120^\circ$ 回せば人差指は指止めBに、中指は指止めCに位置するが、この筆記位置では母指は案内されない。

サツクを更に $120^\circ$ 回せば人差指は指止めCに位置し、中指と母指は案内されない。これは大人の場合考えられる筆記位置である。この場合は中指と母指は回転サツク外のペン軸上に位置する従つてサツクとペン軸はなるべく節のない円筒端面を形成しなければならない。指止めが凹部を形成する場合は筆記者は握り場所を手触りで知ることができるから指は自然に正しい握り場所に位置することになる。握り場所を用いれば万年筆は掌中に固定される。

初心者の場合は先生が学童に正しい位置を決めてやるのが合目的であろう。

第1図及び第2図は、軽い止め座を有するサツク4が万年筆前部で回転できるように、ペン軸の

4

前部2の上に軸方向に嵌められているペン軸の前部断片を示している。前部末端に向つてゆるく円錐形に先細になつてゐる回転サツク4の外装表面には周辺に分布して多数……図示された例では3個……の凹部5, 5a, 5bが形成されている。指止めの役をする凹部は、第1図及び第2図が示す如く、ペン先2の先端から色々な距離の個所に始まり、終つてゐる。各凹部には印しのマークを施すのが合目的である。第1図に見られる凹部5のマークAは6の記号を付してある。握りサツク4を支える前部2の帯2dの外装表面には数字目盛が取付けられており、これによつて握りサツク4の回転調製を行うことができる。

第3図による万年筆の場合は万年筆前部2には円筒断片2aの後部末端に斜めに伸びる隆起8が設けられており、これと、対応して斜めに伸びる内側凹部8aが握りサツク4aの後部末端でかみ合う。かくして両部分2aと4aとはある程度締合わされ、正しい回転位置に取付けられた握りサツク4aが意志に反して歪んだり軸方向にずれることのないように保証される。僅かな回転運動によつて握りサツク4aは前部2の隆起8から解放され、又他の角度で前部に固定することができる。

第5図では前部には、シリンダー状断片2bの後部末端に刻み目9が設けられており、握りサツク4bの後部末端には内部にこれに相応するカウンター・プロフィール9aが形成されている。細かい歯のように互にかみ合う刻み目9とカウンター・プロフィール9aは握りサツクの回転調製に一定の努力を必要ならしめる。握りサツク4bが、回転調製の際、万年筆前部2の円筒部2bから簡単に外れないようにするため、前部2には小さな肩11が形成されている。握りサツク4bは、強く押せば、肩11を越えて前部の円筒部2bの上へ送られ、前部2の後部の帯2dと肩11との間に固定する。

第5図中、円筒部2dの前にある前部2の部分は内側ねじを有するサツクとして形成することができ、前方に伸び、外側ねじを施された部分2bに嵌められる。第6図によるサツク4b乃至第4図によるサツク4aは支えサツクを外した場合は押し座によつて円筒部2b上に押しやり、ねじ込まれた支えサツクと帯2dとの間にどんな角度にも固定することができる。

前部2乃至2a或は2bと握りサツク4乃至4

5

a 或は 4 b との間の毛管作用をする環状間隙に沿ってインクが流れるのを避けるために握りサック内側のサック前端付近に環状溝 10 があけてある

凹部の役をしている指止めは、初めに述べた通り、周知の方法で、勾配、凹部、けば立て、柔軟な弾性押板或は他の形でこれを施工することができ、図示した実施例とは別に、目的に適するよう配置することができる。万年筆を支える指のための指止めがはつきり感触でわかり、紙にペン先を押しつけた場合指が前に滑るという特に初心者の場合屢々見られる不便を除くような作用をすれば特に便利である。併し単に点、環、十字等の形のマークで指止めを示すことも可能である。多くの場合要するに如何にすれば万年筆を正しく握るかを子供に理解させれば足るのである。

15

実用新案登録請求の範囲

軸方向に配列され周囲に分布される指止めを前部に具えるようにした筆記用の万年筆において、

6

サック (4, 4 a または 4 b) が万年筆全部 2 の口径で分離される端末断部 (2 a または 2 b) の上に配備され、この際にこれが、少なくとも 1 個の肩 11, 2 d によつて軸からの狂いを保護し且つ万年筆前部 2 の口径分離端末断片 (2 a または 2 b) を常に回転位置に固定できるようにし、このことによつて対応の凹み (8 a または 9 a) における刻み目 (8 または 9) がサック (4, 4 a または 4 b) の内面に係合しそしてここにおいて 3 個の指止め (5, 5 a または 5 b) がサックに具えられ、これが常にその都度の人差指の感覚にその都度適応してその都度の手の大きさに適応する間隙および角度にペン先 3 向ける役をなすことを特徴とする万年筆。

引用文献

登録実用新案 3 4 4 5 7



